

早期避難等情報発信システムの構築

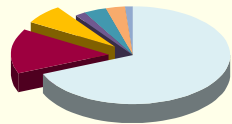
危機管理・防災課
H30当初予算額 3,720千円

【対策のポイント】

- 沿岸の防災行政無線のサイレン及び音声パターンを統一し、大津波・津波警報を合図に手動放送を開始するまで繰り返し自動放送する。 ➡ 避難行動の呼びかけを強化・連続化
- 高知県総合防災情報システムを改修することにより、緊急速報メールを自動配信できるようバージョンアップ。
大津波・津波警報以降に発表される「津波情報（予想される津波高、到達時刻等）」を継続して配信する。 ➡ 津波情報を継続的に配信
- 携帯電話の振動及び画面に表示される文字情報で避難を促し続ける。 ➡ 聴覚障害者等への情報伝達も可能

【課題】『平成27年度地震・津波に対する県民意識調査』（平成27年9月）

⇒約2割の県民が「避難を開始するためのきっかけを必要としている」ことが判明



- 揺れがおさまった後、すぐに (68.6%)
- 津波警報が出たら (14.8%)
- 市町村から避難の呼びかけがあったら (6.6%)
- 近所の人や家族が避難したら
- 家族が避難したら
- マンション等の高層階に住んでいるため避難しない
- 無回答

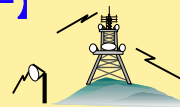
津波からの避難の呼び掛けを行う仕組みが必要！

- H28年度：「早期津波避難システム検討委員会」（平成29年1月）
※委員：学識経験者、高知地方気象台、県内3市防災担当課長等
○防災行政無線、緊急速報メール等の活用など対策案の提示
- H29年度：「早期津波避難システム検討協議会」（平成29年7月～10月）
※委員：沿岸19市町村防災担当課長、高知地方気象台等
○対策案の具体化
対策1：防災行政無線のサイレン及び音声パターンを統一
対策2：緊急速報メールを活用した津波情報の配信

【目的】津波から早期に避難するための呼びかけを強化し、沿岸にいる人々の命を守る。

【対策1：防災行政無線のサイレン及び音声パターンを統一】

- **大津波警報は命令調で呼びかけ**
 - ・ **大津波警報**：サイレン（3秒吹鳴2秒休止）× 3回
「大津波警報、大津波警報。大至急、高台へ避難せよ。
大津波警報が発表されました。海岸付近の方は大至急、高台に避難してください。」
 - ・ **津波警報**：サイレン（5秒吹鳴6秒休止）× 2回
「津波警報が発表されました。海岸付近の方は大至急、高台に避難してください。」
- **繰り返し自動放送を継続**



【対策2：緊急速報メールを活用した津波情報の配信】

- **総合防災情報システム改修により緊急速報メールを自動配信**
 - ・ 気象庁が発表する「津波情報」の電文を解析する機能を追加
 - ・ 「津波情報」をもとに緊急速報メールを自動配信する機能を追加

